

## 研究レポートの評価基準

富山短期大学 関 好博

- 1 タイトルは適切か（1点）
    - ①内容を示すものになっているか
    - ②テーマのメイン、サブの関係性は取れているか
  - 2 文章は適切か（2点）
    - ①誤字・脱字はないか、割合は小数点第1位まで記述しているか
    - ②段落の取り方や見出しの立て方は適切か
    - ③読みやすい書き方になっているか、曖昧な語句を使用していないか
  - 3 図表、写真の用い方は適切か（2点）
    - ①図表・写真的番号やタイトルは添えてあるか
    - ②適切な図表のタイプを選択してあるか
    - ③データ処理や見せ方は適切か
  - 4 内容は適切か（各1点）
    - ①根拠に基づき、論理的な説明がなされているか。
    - ②意欲的な取組みか、興味関心を惹くものになっているか、社会的意義
    - ③参考文献や引用文献の取り扱いは適切か
    - ④目的に対して調査、分析の方法と内容は適切か
    - ⑤研究目的に合った内容になっているか。

## 論文のまとめ方

### 1 研究目的は明確か

(1) 何を明らかにしようとしているのか

(2) 明らかにしようとしていることが抽象的になっていないか

- ・何を対象としているか説明できているか
- ・どこに焦点をあて、どういう切り口で
- ・何を調べることで
- ・何を示そうとするのか

(3) 結論ありきの表現になっていないか

- ・問題意識、あるいは自分の思い込み、言いたいことがそのまま「研究目的」になるのではない。
- ・例「Aという現象がなぜ生じているのか、その要因を明らかにすることを目的とする。」  
→分析や考察の結果、結論としてAという現象にBという要因がどのように影響しているのか。そのほかの要因とも関係しているかどうかを客観的に述べる。

### 2 目的に対して調査、分析の方法と内容は適切か

(1) 方法ありきになっていないか

- ・既成の方法に当てはめれば、必ず結果が出るとは限らない。
- ・研究目的にある明らかにしようとする事実を客観的に示すためには、何を調べ、どのように分析すべきかを工夫することが重要。  
→独自の分析の視点、分析内容が研究のオリジナリティとなる。
- ・方法とは、新自治や事実を客観的に示す手段に過ぎない。

### 3 論理的な文章を書く

(1) 主観的な文章にならないこと

- ・思いや言いたいことが先行しないように注意する。
- ・目的も分析も結論も同じようなことが述べてないか、よく確認する。

(2) 客観的に分析し、論理的に説明する

- ・目的で示した「明らかにしようとしたこと」に帰結するよう論理を展開する。
- ・文章を読みなおし、誰が読んでも客観的にりかいできる文章となるよう、加筆修正にエネルギーと時間をかけること。

# 「卒業研究」ガイドンス 3

H21.4.22

## 卒研報告集の作成に向けて

### I 研究報告書に求められるもの

#### (1) レポートと研究との違い

- ・レポートは、例えば与えられた課題について論述したり、ある事実に関して記述したりするもの。調べてわかったことを単に述べたり、経験を語ったりするような場合もある。
- ・研究報告書では、先行研究を踏まえたもので、仮説が設けられていて、それへの考察があり、結論の根拠が示されているなど、信頼性と妥当性の検証を通じて他の人にも役立つように、普遍化や一般化が試みられているもの。

#### (2) 卒研報告集の基本構造

① 研究の背景

② 研究の目的

※ここまでを「I 動機及び目的」としてまとめる。

③ 研究の対象と方法

※これが「II 方法」になる。

④ 結果

研究した結果、わかったことをまとめる。

⑤ 考察

結果から考察したことをまとめる。

※「III 結果」「IV 考察」とする場合と、「III 結果と考察」とする場合がある。

⑥ 結論

※通常「V まとめ」となる。

⑦ 文献

※必ず引用・参考文献を書き出す。

福祉学科では、さらに「感想」も記述する。

#### (3) 先行研究レビューを大切に

① 自分たちが選んだテーマが社会的に重要で、注目されていることを明らかにできる。

② 先行研究でわかっていること、わかっていないことを明らかにできる。

③ 意義があるのに先行研究で取り上げられていないことが明らかにできる。

すなわち、研究することが求められていることを明らかにできる。

### II 研究結果のあらわし方

#### (1) 「はじめに」(動機および目的)での基本パターン

・今、〇〇が注目されている。

・先行研究では△△であることが明らかにされているが、□□についてはその重要性が指摘されながら、十分に明らかにされていない。

- ・そこで、本研究では…など

(2) 「研究目的」の書き方

- ・長期的な目的(意義)としては何があるか。
- ・短期的(今回の研究で答えを引き出したい)課題や仮説は何か。
- ・そもそも、目的はいくつあるのか。  
例「本研究の目的は3つある。第一に…、第二に…、第三に…を明らかにすることである」(ただ、卒研は時間が少ないので、できるだけ研究テーマは絞り込む)

(3) 「対象と方法」の書き方

- ・対象をどのようにして選んだのか。選択基準や、全体の中での位置づけを明らかにする。
- ・どのような調査研究方法をとったのか。
- ・どんな手段、ツールで研究したのか。
- ・分析方法は何か。

(4) 「結果」の書き方

- ・客観的事実を記述する。
- ・意見(=解釈)は入れない。→事実とは区別して、考察に書く。
- ・研究目的に必要なことを中心に書く。  
(表を工夫して使う、関係ないことは略す、細かいことは資料にする)

(5) 「考察」の書き方

- ・実際にわかったことをまとめめる。
- ・その判断や意見、考えの信頼性、妥当性(本当に意味があるか)を考察する。
- ・先行研究を用いて裏づけする(類似所見、妥当性を補強する事実や理論はないか)
- ・何が新しいのか、先行研究と違う理由を述べる。
- ・意義や示唆されたことを6~8割、研究の限界を2~4割という書き方もある。

(6) 「結論」の書き方

- ・研究目的に対する答えを書く。  
例「○○を明らかにすることを目的に取り組んだが、→○○は△△であることが明らかとなつた」
- ・研究目的が最初に3つ述べられていたのなら、答えや結論も3つあるはず。

(7) 「文献」の位置づけと使い方

- ・どんな文献を引用しているかで、研究のレベルがわかる。  
一般的に入門書や養成テキストなどは使わない。ウィキペディアは絶対に使わない。
- ・量は質を決めると言われている。たくさんの文献にあたること。
- ・執筆規定を遵守すること。

# 富山短期大学紀要投稿要領

1. 投稿資格 投稿者は、本学の専任教員に限る。ただし、本学の専任教員の推薦があり、委員会が認めた場合はこの限りではない。
2. 投稿数 原則として各巻1人1編とする。ただし、委員会が認めた場合はその限りではない。
3. 原稿の長さ 原稿の長さは、1編につき原則として図・表・写真等を含め原稿用紙(400字詰)50枚までとする(なお、申込書の組版ではAで15ページ、B・Cで14ページに相当する)。
4. 原稿の内容 投稿原稿は、原則として未発表の論文とし、以下のどれかに分類できるものとする。

## 1) 論文(原著または総説)

原則、背景および目的をまとめた“はじめに(緒言)”、研究方法を記した“方法”、研究結果を記した“結果”、研究結果について過去の研究報告と比較・検討した“考察”、論文で引用した文献を列記した“参考文献”等を含む原稿。

原著：独創性・新規性があり、かつ科学的に価値のある事実を含む論文。ただし、文学や芸術分野については、必ずしも科学的価値はなくてもよい。

総説：特定の主題について、これまでの知見や研究業績を総括した論文。

## 2) 研究ノート・実践活動報告

研究ノート：データあるいは考察が不十分であるなど、原著の完成度には至らないが独創性・新規性があり、研究のプロセスとして報告に値する論文。

実践活動報告：特定分野の実践的活動を報告した論文。

## 3) その他：資料、翻訳、書評など

資料：行政調査結果や時節現象などの有用と思われる情報を提供する論文。

翻訳：ある言語で表された文章を他の言語に置き換えて表すこと。

書評：書物について、その内容を紹介・批評した文章。

原稿には、1表題、2表題の英訳、3著者の氏名およびローマ字表記を明記する。

5. 投稿申込 「紀要投稿申込書」に所定の事項を記入の上、本学図書館事務室に申し込む。  
紀要58巻の申込み締め切り日は9月24日(金)とする。なお、申込みには下記の組版の種類を選択することができる。

A. 横組(39字・36行) B. 横二欄組(21字・36行) C. 縦二段組(32字・23行)

## 6. 原稿の書式と体裁

- (1) 対応可能ソフトについて、Word・一太郎以外を使用する場合はバージョンの確認が必要。
- (2) グラフや図表は完成原稿として提出する。
- (3) 原稿の体裁はレイアウト基準を基本とする。

余白：	左右ともに 25 mm
文字数及び行数：	A. 横組 (39 字×36 行) B. 横二欄組 (21 字×36 行) C. 縦二段組 (32 字×23 行)
フォント：	タイトル 14 ポイント 副タイトル 12 ポイント 英タイトル 14 ポイント 英副タイトル 11 ポイント 執筆者名 (和) 10 ポイント 執筆者名 (ローマ字) 10 ポイント 本文 10 ポイント 所属 (1 ページ目下) 8 ポイント

7. 投稿締切 原稿は完全原稿とし、投稿締切り日は、令和 4 年 1 月 11 日（火）とする。投稿論文は紀要委員会に提出するものとし、その日を受付日とする。

8. 投稿の査読 紀要委員会で査読し、採録を決定する。

その際、事務局で論文剽窃チェックツールを用い、剽窃や不正な引用がないかも確認する。

## 9. 人権保護及び倫理的配慮

人を対象とする研究においては、調査等の対象となる人々の人権に配慮しなければならない。また、投稿原稿の内容が倫理的配慮を必要とする場合は、本学倫理委員会の承認を受けておくこと。その場合は、研究倫理上必要な手続きを経ていることを本文または注に明記すること。

10. 投稿の掲載 紀要の印刷・製本は行わず、富山短期大学機関リポジトリにオープンアクセスで公開する。

11. 校正 校正は原則として 2 校までとする。

## 12. 紀要電子化・公開に伴う著作権上の注意

- (1) 本紀要に掲載された論文等の著作権は本学に属するものとする。
- (2) ただし、自分の論文等をまとめて出版するなど著者が自分の論文を利用してもよい。
- (3) 論文中に他人の著作物を掲載または引用する場合には、その著作権に十分留意する。